

第3回千曲川中流域砂礫河原保全再生検討会 議事要旨

1. 開催日時：平成27年3月20日（金）13：00～15：00
2. 場 所：千曲市役所上山田庁舎302会議室
3. 出席者：平林委員、島野委員、豊田委員、笠原委員、北野委員、傳田委員、中村委員、宮原委員（倉田代理）、村田委員（本間代理）、藤田委員（武田代理）、北島委員、青木委員、清水委員、竹内委員、富岡委員、依田委員、宮武委員
4. 議事概要（凡例：「◇」事務局からの連絡、「*」質疑、「→」回答、「☆」意見
 - 1) 第2回検討会以降の経過
◇第2回検討会のあと、第3回技術部会、第4回技術部会を開催し、専門的な意見を頂いた。地域協働の取り組みについて、1月に各行政の方々に提案、2月に行政及び漁協へアンケート、3月に平成27年度の整備箇所を選定について事前説明を行った。
 - 2) 平成26年度自然再生事業実施報告
 - ①土砂投入について
*土砂投入実験を行っているが、付着藻類が流れるほうが望ましいのか。
→アユにとっては、石の表面の藻類を削って新しい藻類が生えやすい環境を作ったほうがよいと考えている。
☆事務局の理解で正しいと思う。
 - 3) 平成27年度以降の事業実施予定箇所について
 - ①物理環境基盤と植生の関係について
☆良好な砂礫河原、カワラヨモギ群落が維持される環境を作っても、外来種は入ってくる。しかし、このような環境を作れば、アレチウリやハリエンジュが長い期間、繁茂しつづけることはない。
 - ②長野市区間の自然再生について
☆中州は鳥類にとって重要である。同じ砂礫地であっても、コアジサシ、コチドリなど鳥によって、好む砂礫地の質が違う。どのような砂礫地を目指すかも検討する必要がある。
☆沿川の地区から大きくなった中州の撤去や樹木伐採の要望がでている。自然再生事業と一緒に進められればよい。
→事業箇所については、本検討会とは別に「環境保全モニター会議」というものがある。その中で鳥類に関するモニターとして野鳥の会の方もいるので、野鳥の会の意見も参考にしていく。また、河川改修事業や維持工事など他業務で実施する場合もあるので、その場合は、配慮事項を伝えていく。

4) 優先して実施する箇所における河道掘削形状の設定等

①掘削形状の考え方

☆河道管理上は中州は生じさせたくないが、一方で、ハビタットとして貴重である。中州を生じさせない川を目指すといっているが、議論が必要である。

→規模の大きな中州が出来ると中州の両側が河床低下する。結果として中州上が樹林化していることが経年変化よりわかっているため、このような表現としている。長野市区間では中州が重要としているが、上流では「中州を生じさせない」という表現が正しいのか、表現方法については今後検討していく。

5) モニタリング調査について

①モニタリング手法

* 下流側の河川形態の変化をモニタリングする箇所では、事前データを取っていないが、今後、どのように変化を把握するのか。

→平成27年度の事前モニタリングを行うので、その中で、フォローしていきたい。

☆平成27年度施工箇所についても、下流側で事前調査を実施したほうがよい。底生動物については、寒い時期のデータを取っておけば来年使えると思う。

②付着藻類について

☆今回の資料で、付着藻類、珪藻等の調査をしていただいているが、珪藻がアユに適しているか疑問である。昨年、更埴で300キロのアユの放流を行ったが、調査ではアユがまったく取れなかった。ということは、この珪藻が鮎に適していない気がする。昔のような川に戻したいが、時間がかかるのではないかと。

③生物相互のつながりについて

☆掘削前には重要種の調査を行ない、掘削時に重要種の生育環境が守られるように配慮してほしい。

☆アユが藻類を食べたり、水生昆虫が羽化して鳥に食べられたりなど、食物網のつながりを、千曲川で整理すると、委員の先生にもわかりやすいし、環境教育にも有用である。

6) 地域住民との協働による自然再生の取り組み提案

①地域協働について

☆昔に比べると川が汚くなってきている。自然再生事業を進めていただき、同時に、なぜ、魚が取れないのか、なぜ、川が汚いのかも検討していただきたい。自然保護の意識も地域で高くなってきている。是非、皆さんで知恵を出し合って、昔のような川にしていきたい。

☆千曲市では、市民を巻き込んでクリーン作戦をやっている。今後、有害獣の駆除も必要かもしれない。水辺の楽校を整備してもらっているので、市民団体と連携して環境の勉強をやっている。子供たちに、ふるさとの川を守っていきたいという気持ちを持ってほしい。

☆「さかきふれあい大学」の中のキッズクラブで、年に数回定期的に、水生動物や植物の観察会をやっている。また、つけば小屋を運営している方々が中心になり、子供たちに千曲川を知ってもらうため「川の学校」もやっている。河川利用者に声をかけクリーンキャンペーンを年1回、子供たち中心にごみ拾いを年1回やっている。

☆過去からいくつかのイベントを継続している。先日、「道と川の駅」周辺で、アユの放流をやったが、熱心な地元の方がいるので継続していきたい。上田市では「アレチウリ駆除の日」を設けて取り組み始めた。河川での取り組みもPRになるので是非、上田市でも自然再生を実施してほしい。

☆長野市も自然再生の候補地になった。地元からも河川環境整備の要望が出ているので、地元と調整を進めていきたい。

☆長野県環境部では、せせらぎサイエンス指導者研修会、アレチウリ指導者研修会など、地域のリーダーを育てる研修会を行っている。また、魚のすみやすい環境はどのような環境か、一般の方にもなじみやすい指標を作っていきたいと考えている。

☆千曲川の支川において地域連携の取り組みがあるか、調べてみたが取り組みは無かった。これから、市町村と関係する中で、取り組んでいきたい。本検討会の環境面の検討については、参考にさせていただき、県管理の河川に適用できるか考えていきたい。

☆養蜂業者にとっては、ハリエンジュは大事な蜜源樹であり、毎年のように、差し支えない範囲で残すことを要請してきた。ハリエンジュは明治のはじめころ、国策として植えられた経緯がある。外来種とは人の生活や自然環境に迷惑をかける動植物のことであり、ハリエンジュを外来種と呼ぶのには違和感がある。

7) 今後の予定について

◇来年度、検討会を7月と2月に予定している。

◇技術部会を6月と1月、モニタリング部会を、春調査、秋調査の前に予定している。

①モニタリングの時期

☆コクチバスの産卵時期を考慮して、モニタリング調査を行ない、産卵床をどのような魚類が競合して使っているかなどを調べれば、他の魚の減少の要因がわかるのではないかと思われる。